佳作

楽しむための努力

和歌山県 近畿大学附属和歌山中学校二年　中尾 実玖

「あとは楽しむだけだからね」。この言葉、誰もが一度は言われたことがあるのではないだろうか。私はクラシックバレエを五歳から習っていて発表会の前などには必ずと言っていいほど、家族や先生にこの言葉をかけられる。とてもいい言葉だと思う。緊張しすぎると普段の力が発揮できないし、何よりこちらが楽しく踊る姿が観に来てくれた方にも伝わり感動を生むと思うからだ。しかし、学年が上がるにつれてただ楽しむというだけではいかなくなってくる。本番を楽しむためには楽しむための努力をしなければならないと気づくのだ。その瞬間を私は鮮明に覚えている。

それは小学三年生の発表会の時だった。私たちのパートは最後にクルクルと回った後に座ってポーズを決めなければならなかった。そのタイミングを六名全員で揃えなければならなかったが、タイミングを合わせるのが難しく前日リハーサルの時点でもバラバラだった。バラバラなのに先生は特に注意するわけでもなく、

「明日の本番楽しんでね。」

と言った。前日でこれならもう本番もぴったり合わせるのは無理だろう。そう思われてしまったのだろうか。私はぴったり合わないまま本番を迎えるのがとても嫌で、一緒に踊る子たちに声を掛け当日も本番直前まで自主練した。自主練のおかげで、前日よりは揃うようになったが、まだぴったりとまではいかない。結局一度もぴったり揃うことのないまま本番を迎えた。

本番では楽しむことだけを考えた。できることはやった、と思えたからかもしれない。楽しむことだけに集中した本番では一度も揃えることができなかった最後の部分を、六人全員でぴったり揃えることができた。嘘みたいな話だと自分でも思う。終わった後に舞台袖でみんなで抱き合った。「楽しむ」の先に行けた気がした。

発表会が終わって数日経った後、揃っていなかったのに楽しんでね、と言われて悔しかったこと、みんなで自主練をしたことなどを先生に話すと、

「楽しむまでの努力はたくさん必要、それがわかって舞台を楽しめたら本物だね。そしてあなたは舞台上でいつも楽しそう。楽しむ天才だね。観ているこちらも幸せになるよ。」

と言ってもらえた。舞台上からの景色はそこに立った者にしかわからない。準備や努力をたくさんして、そして最後は心から舞台を楽しんだ者にだけ与えられる感動があると思う。小学三年生のあの日からずっと楽しむための努力と向き合っている。これからの人生、この経験はきっと私の武器になると確信している。